

平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡 発掘調査報告書

2 0 2 1

株式会社 文化財サービス

例 言

- 1 本書は、京都市下京区西七条石井町8番地1他で実施した、平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡の発掘調査報告書である。(京都市番号 20H580)
- 2 調査は、株式会社松井商店より、株式会社文化財サービス(以下、「文化財サービス」という)に委託され実施した。現地調査は菅田 薫が担当した。
- 3 調査期間は、令和3年2月4日～令和3年3月6日である。
- 4 調査面積は、218㎡である。
- 5 図1・図5で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「鳥原」「西京極」「中河原」「梅小路」を調整して作成した。
- 6 本文・図中の方位・座標は世界測地系平面直角座標系第Ⅵ系による。標高は、T.P.(東京湾平均海面高度)である。
- 7 土層名及び出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 8 本書の執筆は、菅田が行い編集は菅田、野地ますみが行った。
- 9 遺跡の写真撮影は菅田が行った。出土遺物の撮影は写房楠華堂に依頼した。
- 10 調査に係る資料は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が保管している。
- 11 発掘調査及び整理作業の参加者は、下記の通りである。

〔発掘調査〕 上田智也 小林一浩 田中慎一 中優作 望月麻佑 吉岡創平
作業員 (株式会社京カンリ)

〔整理作業〕 赤羽 香 上野恵己 内牧明彦 大崎みれい 神野いくみ 甲田春奈
塩地宏行 下市沙耶香 多賀摩耶 場勝由紀葉 早見由槻 溝川珠樹
望月麻佑 森下直子 吉川絵里 若山美帆
- 12 出土遺物の年代観は、
 - ・小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
 - ・平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要』第12号 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年に依った。また弥生時代～古墳時代の土器は、以下を参考にした。
 - ・高野陽子「弥生時代後期～古墳時代の土器様相」『佐山遺跡 京都府遺跡調査報告書 第33集』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2003年
 - ・森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社 1990年
- 13 現地調査・整理作業において、下記の方々にご教示をいただいた。記して感謝いたします。

國下多美樹(龍谷大学)、鈴木久男(京都産業大学)、浜中邦弘(同志社大学歴史資料館)、平尾政幸(関西文化財調査会)、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯と経過	
1 発掘調査実施に至る経緯	1
2 発掘調査の経過	1
第Ⅱ章 位置と環境	
1 位置と環境	5
2 既往の調査	5
第Ⅲ章 発掘調査の成果	
1 基本層序	9
2 遺構の概要	9
(1) 第3面	9
(2) 第2面	9
(3) 第1面	14
3 出土遺物	20
(1) 遺物の概要	20
(2) 出土遺物	20
第Ⅳ章 まとめ	29

図版目次

図版1 遺構	1. 調査地上空から北方西市方面を望む 2. 第3面全景(北から)
図版2 遺構	1. 1区 湿地066(南西から) 2. 2区 第3面全景(北から)
図版3 遺構	1. 1区 第2面全景(北から) 2. 湿地023遺物出土状況 3. 湿地023 土器38出土状況 4. 湿地023 土器37・41出土状況
図版4 遺構	1. 1区第2面 湿地024(南から) 2. 湿地024 土器45出土状況(北から) 3. 湿地024 土器46出土状況(南から)

4. 湿地024 土器42出土状況 (南から)
 5. 湿地024 土器43出土状況 (東から)
- 図版5 遺構 1. 2区第2面全景 (北から)
 2. 2区第2面 土坑077 (北から)
 3. 竪穴建物033 ビット (東から)
 4. 竪穴建物033全景 (北東から)
- 図版6 遺構 1. 1区第1面全景 (北から)
 2. 2区第1面全景 (北から)
 3. 1区第1面 土坑010 (西から)
- 図版7 出土遺物 1. 土坑030
 2. 湿地066
 3. 湿地066
 4. 湿地066
 5. 湿地066
 6. 土坑077
 7. 竪穴建物033
- 図版8 出土遺物 1. 土坑028
 2. 湿地023
 3. 湿地024
- 図版9 出土遺物 1. 湿地024
 2. 土坑010

挿図目次

図1	調査地位置図 (1:2500)	1
図2	調査地位置図2	2
図3	発掘調査経過写真	3
図4	調査区割・基準点配置図 (1:200)	4
図5	既往調査位置図 (1:5,000)	6
図6	調査区北壁・東壁・南壁断面図 (1:80)	10
図7	調査区西壁・X=-112.286ライン断面図 (1:80)	11
図8	第3面平面図 (1:120)	12
図9	第2面平面図 (1:120)	13
図10	湿地023、湿地024遺物出土状況図 (1:80)	15
図11	土坑077、土坑028平面・断面図 (1:50)	16
図12	竪穴建物033平面・断面図 (1:50)	17
図13	第1面平面図 (1:120)	18

圖14	土坑029、柱穴001・002、土坑010平面・断面圖（1：50）	19
圖15	出土遺物実測圖1（1：4）	21
圖16	出土遺物実測圖2（1：4）	23
圖17	出土遺物実測圖3（1：4）	25
圖18	出土遺物実測圖4（1：4、1：1）	26
圖19	四行八門圖（1：1,000）	29

表目次

表1	既往調査一覽表	7
表2	遺構概要表	9
表3	遺物概要表	20
表4	出土遺物觀察表	27

第 I 章 発掘調査の経緯と経過

1 発掘調査実施に至る経緯

京都市下京区西七条石井町において工場建設が計画された。当地は平安京右京八条二坊七町跡及び衣田町遺跡にあたる。そのため京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下文化財保護課）により試掘調査が先行して行われた。その結果古墳時代の遺物包含層・遺構面や遺物が良好な状態で確認できたことから文化財保護課は発掘調査を指導した。

2 発掘調査の経過

調査は、2021年2月4日から現地作業に着手し、3月6日にすべての工程を終了した。

文化財保護課からの指導で工場建設予定範囲のうち、218㎡の調査区をかざ形に設定した。排土置き場を考慮し北西に突出した約40㎡を排土置き場としたため、2区に分割して調査を実施した。調査面積は1区約178㎡、2区40㎡である。

調査は、近・現代整地土を重機によって除去し（図3）、その後人力により第1面の精査及び遺構検出を行った。その結果、調査前の駐車場に伴う攪乱を確認した以外に、中・近世などの遺構は無くまた、平安時代の遺構もわずかな柱穴状の穴と前期の土坑1基を検出したにとどまった。この平安時代の遺構の成立面となるのが湿地状を呈する細砂層で旧流路とみられる砂礫層の上面

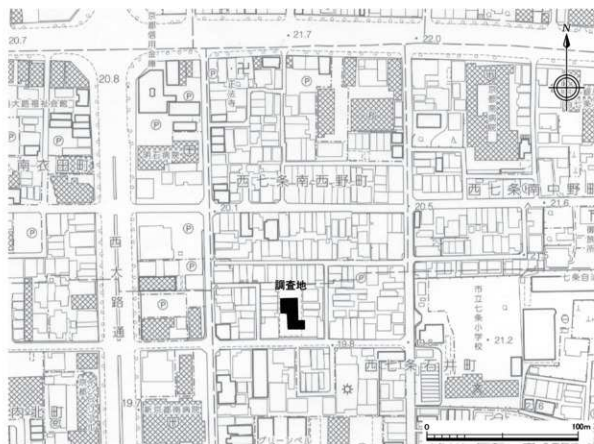


図1 調査地位位置図（1：2,500）

に堆積している。この細砂層からは古墳時代前期の遺物が良好に出土した。細砂層を除去した第2面で、竪穴建物とみられる遺構と柱穴状の土坑を検出した。最終面（第3面）では、砂礫層の上面で弥生時代から古墳時代初期の遺物を包含する湿地状の堆積層を確認した。

調査全般を通じて各遺構面での遺構検出や完掘時に文化財保護課の検査を受けた。また龍谷大学教授岡下多美樹氏、同志社大学歴史資料館准教授浜中邦弘氏には外部検証委員として適宜現地視察と検証をしていただき、調査に対する適切なご指導をいただいた。

測量基準点の設置と地区割り（図4）

測量基準点は、VRS測量により調査区の南にP. 1、北東にP. 2の2点設置した。基準点測量の成果は、以下のとおりである。

P. 1 X=-112,291.804m Y=-24,304.201m H=20.018m

P. 2 X=-112,269.366m Y=-24,302.843m H=20.065m

検出した遺構実測および遺物取り上げの単位とするために、測量成果に基づき3m四方のグリッドを設定した。地区名はX軸、Y軸の北西交点の下三桁の数字で呼称した。例えば柱穴001はX275、Y309と地区名を記した。また包含層掘削においても3mグリッドで遺物取り上げを行った。記録作業は、手測りによる実測と写真測量を併用し図面を作成した。写真は35mmフルサイズのデジタル一眼レフカメラ、35mmモノクロフィルム・35mmカラーリバーサルフィルムを使用し撮影した。

整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業及び報告書作成を行った。整理作業は、写真・図面の整理と出土遺物の整理を並行して行った。遺物の整理は、洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った後、報告書の執筆及び編集作業を行い、報告書を作成した。執筆は調査を担当した菅田 薫が、

編集作業は菅田・野地ますみが担当し、その他整理業務は当社社員が分担して行った。遺物写真の撮影は、写真楠華堂に依頼した。

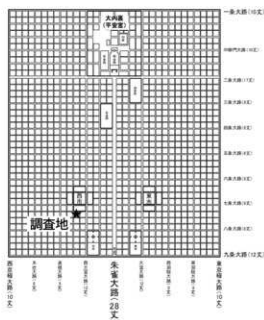


図2 調査地位置図2



1. 調査前（南から）



2. 重機掘削



3. 基準点測量



4. 作業風景



5. 浜中検証委員の視察



6. 地下検証委員の視察



7. 文化財保護課の検査



8. 埋戻し終了後（南から）

図3 発掘調査経過写真

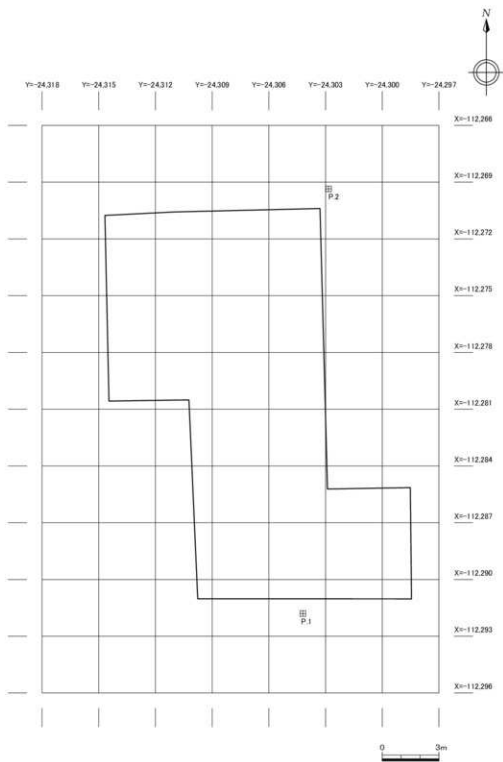


図4 調査区割・基準点配置図 (1:200)

第Ⅱ章 位置と環境

1 位置と環境 (図5・19)

調査地は西大路七条交差点の南東にある。平安京の条坊で右京八条二坊七町にあたり、北に塩小路、西に西堀川小路、東に西靱負小路、南は八条坊門小路に囲まれ、四行八門地割では東三行北一・二門に位置する。また弥生時代～古墳時代の遺物散布地である衣田町遺跡に該当する。

調査地の右京八条二坊に関する史料は少ない。『捨芥抄』西京図によれば九・十・十五・十六町の四町に藤原忠能領、十一・十二町に故播磨守師信領 安芸守経忠伝領があったとされる。塩小路の北の町には平安京内に置かれた官営市の西市外町が置かれていた。

調査地周辺の西七条石井町のいわれは平清盛が熱病を患った際に調査地の東、水薬師寺境内にあった弁天堂の清水(岩井の井)の水で浴したところ熱病が快癒したことから清盛と称され、岩井の井戸から石井町となったとされる。また水薬師寺の西には大池があったとされ、当地一帯が湿潤な土地であったことがわかる。中世以降西七条と呼ばれ、京の七口の一つ丹波口から山陰への丹波街道沿いに位置することになる。右京域の衰退後は耕地化されたと思われ、湿潤な土地柄を利用した蔬菜栽培、特に京野菜と呼ばれるセリ(京セリ)やミズナ(壬生菜)が特産となった。

2 既往の調査 (図5・表1)

調査地の北に接する八条二坊八町の西市外町(調査35)では、板材や杭で護岸した区画溝とみられる溝を検出し、平安時代前期の遺物も多く出土し市外町の様相を明らかにしている。また、東側約100mの場所にある八条二坊二町にあたる七条小学校校地で3度にわたり発掘調査が行われている(調査29～31)。それらでは、平安時代前期の西靱負小路東西の側溝と路面、掘立柱建物・欄列・区画溝・土坑などと流路・湿地状の堆積と堤状の遺構を検出した。それらの各遺構から多くの平安時代の遺物が出土している。特に木製遺物が良好な状態で出土している。これらは、北に接する西市との関係で注目できる遺物が多い。

七町内では調査地の南西に接する地点で小規模な発掘調査が行われている(調査33)。弥生時代から古墳時代の土器類、平安時代前期の土器類や土馬などが出土した湿地状遺構を検出しており、特に古墳時代布留期の土器が良好に出土した。また、調査地の南側の(34)地点でも立会調査により弥生時代～古墳時代、平安時代の遺物を包含する湿地状堆積を確認している。

参考文献

- 京都市「下京区」『史料 京都の歴史』第12巻 平凡社 1981年
『京都市の地名』『日本歴史地名体系』27 平凡社 1987年
『捨芥抄』改訂増補故実叢書22巻 明治図書出版株式会社 1993年
山田邦和「第三章 左京と右京」『平安京提要』 角川書店 1994年

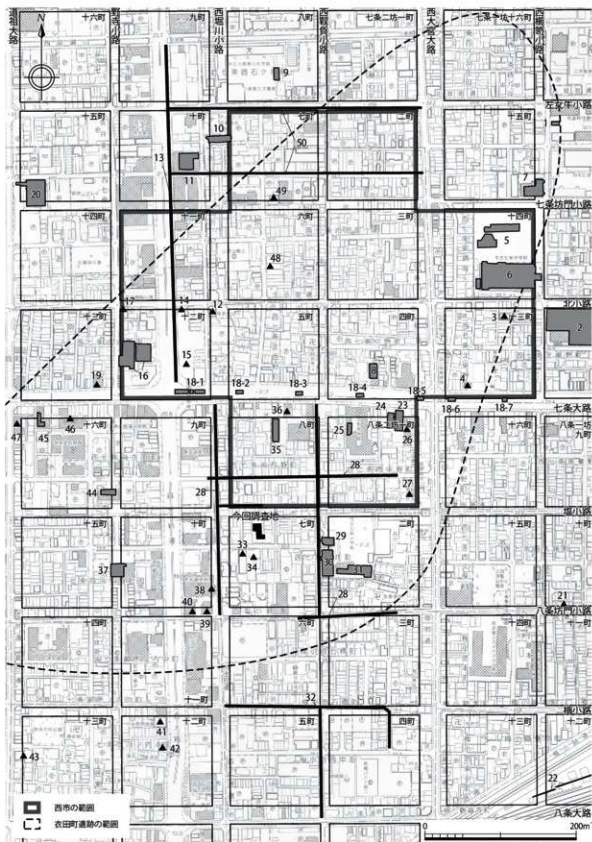


図5 既往調査位置図 (1 : 5,000)

表1 既往調査一覧表

	調査位置	調査法	調査成果概要	文献
1	七条一坊十町	立会	明治時代以前の湿地。	「右京七条一坊」昭和61年度 京都市埋蔵文化財発掘調査概要 埋文研 1989年
2	七条一坊十二町	立会	平安時代前期から中期の掘立柱建物・溝・区画溝など。	「平安京右京七条一坊十二町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告「2018-12」埋文研 2019年
3	七条一坊十三町	立会	平安時代の土坑を検出。	「京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度」京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
4	七条一坊十三町	立会	平安時代末期～鎌倉時代の土坑を検出。	「京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度」文化市民局 2001年
5	七条一坊十四町	発掘	弥生時代の方形周溝溝・落ち込み、平安時代前期の掘立柱建物・井戸・土坑・溝など。	「平安京右京七条一坊十四町・衣田町遺跡」埋文研 2011年
6	七条一坊十四町	発掘	平安時代前期から中期の掘立柱建物・溝・井戸・土坑、西藤崎小路西側溝など	「平安京右京七条一坊」平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1999年
7	七条一坊十五町	発掘	奈良時代以前の流路、平安時代前期～中期の掘立柱建物・溝・井戸・掘移施設、西藤崎小路西側溝など	「平安京右京七条一坊十五町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告「2008-19」埋文研 2009年
8	七条二坊四町	発掘	平安時代末期～鎌倉時代の柱穴・土坑・溝、江戸時代以降の土坑・柱穴・土取り穴・井戸を検出。	「平安京右京七条二坊四町（西市）跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 3/05-6 埋文研 2005年
48	七条二坊六町	立会	縄文時代土坑、弥生時代溝、平安時代包含層	「京都市内遺跡試掘・立会調査概報-昭和56年度-」文化観光局 1982年
49	七条二坊七町	立会	縄文時代包含層 深鉢	「京都市内遺跡試掘・立会調査概報-昭和55年度-」文化観光局 1981年
50	七条二坊七町	立会	弥生時代竪穴建物？	「京都市内遺跡立会調査概報-平成11年度-」文化観光局 1982年
9	七条二坊八町	発掘	平安時代中期の溝	「右京七条二坊」昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）埋文研 1983年
10	七条二坊十町	発掘	平安時代前期の西栗川小路東側溝及び築地とみられる欄列・土坑、中期の流路、後期の溝など。	「右京七条二坊」昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1985年
11	七条二坊十町	発掘	飛鳥～奈良時代流路、平安時代前期掘立柱建物・溝・井戸・土坑、中期の柱穴・溝など	「22 平安京右京七条二坊」平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1994年
12	七条二坊十二町、西栗川小路	立会	平安時代の溝・包含層を検出。	「京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度」文化観光局 1987年
13	七条二坊九～十二町、五左衛門小路、七条坊内小路、北小路	発掘	平安時代の流路状遺構、北小路南側溝、時期不明の井戸を検出。	「平安京右京七条二坊」昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1993年
14	七条二坊十二町、北小路	試掘	平安時代の北小路南側溝を検出。	「京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度」文化市民局 2011年
15	七条二坊十二町	試掘	平安時代の遺構面を検出。	「京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度」文化市民局 2012年
16	七条二坊十二町、野寺小路	発掘	平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物・溝・井戸・柱穴群を検出。	「平安京右京七条二坊」平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1999年
17	七条二坊十二町、北小路	試掘	平安時代前期の北小路南側溝、平安時代後期の柱穴、室町時代の溝などを検出。	「平安京右京七条二坊十二町跡、西市跡、衣田町跡跡」京都市内遺跡試掘調査報告 令和元年版 文化市民局 2020年
18	七条一坊十三町、坊四・五・十二町、七条大路	発掘	平安時代前期の井戸・溝・亀石・柱穴・土坑・土器類・如鉢、鎌倉時代～室町時代の掘立柱建物・溝・井戸・亀石・柱穴・土坑、江戸時代の掘立柱建物・井戸・柱穴・土坑、落ち込みを検出。	「平安京右京七条一坊、西市跡」昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 2011年
19	七条二坊十三町	立会	平安時代の湿地堆積層を検出。	「右京七条二坊十三町」京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度 文化観光局 1993年
20	七条二坊十五町	発掘	古墳時代後期の流路、平安時代の掘立柱建物・溝・溝・井戸、鎌倉時代以前の掘立柱建物。	「24 平安京右京七条二坊」昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1993年
21	八条一坊十町	試掘	平安時代以前の八条坊内小路北側溝・北築地内溝を検出。	「平安京右京八条一坊十町跡」京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度 京都市埋蔵文化財調査センター 1994年
22	八条一坊十二・十三町	試掘	古墳の周溝、平安時代の西藤崎小路西側溝・南北溝を検出。	「平安京右京八条一坊十二・十三町跡」京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度 文化観光局 1993年
23	八条二坊一町、七条大路	発掘	平安時代の七条大路路面と南側溝・流路・区画溝・土坑・柱穴、鎌倉時代～室町時代の七条大路路面と南側溝・区画溝・井戸・溝・土坑・柱穴・土取り穴、江戸時代の七条大路南側溝・溝・井戸・龜・土坑・土取り穴を検出。	「平安京右京八条二坊、西市跡」平成元年 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 1994年
24	八条二坊一町、七条大路	発掘	平安時代後期～鎌倉時代の七条大路路面と南側溝、平安時代後期～室町時代の掘立柱建物・柱穴・土坑を検出。	「右京八条二坊（1）」昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）埋文研 1983年
25	八条二坊一町	発掘	平安時代前期の井戸、平安時代中期の柱穴、鎌倉時代～室町時代の土坑・柱穴群を検出。	「平安京右京八条二坊一町」昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要 埋文研 2011年

	調査位置	調査法	調査成果概要	文献
26	八条二坊一町	立会	平安時代の包含層を検出。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』文化市民局 1997年
27	八条二坊一町	立会	平安時代後期の土坑を検出。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』文化観光局 1991年
28	八条二坊一～三、六～九町、七条大路、堀小路、八条坊門小路、西堀川小路、西萩負小路	立会	平安時代の西萩負小路東側溝を検出。	『石京八条二坊』[昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要] 埋文研 1985年
29	八条二坊二町、西萩負小路	発掘	平安時代前期の流溝、平安時代前期～中期の西萩負小路路面・東西側溝・区画溝、鎌倉時代の溝・土坑を検出。	『平安京石京八条二坊』[昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要] 埋文研 1988年
30	八条二坊二町、西萩負小路	発掘	平安時代前期の流溝・西萩負小路路面、東西側溝・区画溝・掘立柱建物・櫓・土留め・土坑、護岸施設を検出。	『平安京石京八条二坊』[平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要] 埋文研 1996年
31	八条二坊二町	発掘	平安時代前期の池状遺構・堤状遺構、平安時代中期の掘立柱建物、室町時代の井戸・土坑墓を検出。	『平安京石京八条二坊』[昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要] 埋文研 1984年
32	八条二坊三～六町、堀小路、八条大路、西堀川小路、西萩負小路	立会	弥生時代～平安時代前期の湿地堆積層、平安時代の方井・木柵井戸、江戸時代の木柵墓を検出。	『石京八条二坊』[平安京跡発掘調査概報 昭和59年度] 文化観光局 1985年
33	八条二坊七町	試掘	弥生時代後期～平安時代前期の湿地状堆積層を検出。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』文化観光局 1988年
34	八条二坊七町	試掘	平安時代前期の湿地状堆積層を検出。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成25年度』文化市民局 2014年
35	八条二坊八町	発掘	平安時代前期～中期の溝・土坑・柱穴・湿地堆積層、平安時代後期～鎌倉時代の井戸・溝・土坑・柱穴、桃山時代井戸・柱穴、江戸時代の井戸・溝・土坑・柱穴を検出。	『平安京石京八条二坊』[平安京跡発掘調査概報 昭和63年度] 文化観光局 1989年
36	七条大路	立会	平安時代の包含層を検出。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』文化市民局 1999年
37	八条二坊十～十五町、野寺小路	発掘	平安時代前期～中期の野寺小路路面と東西側溝・掘立柱建物・櫓・柱穴、室町時代～江戸時代の溝を検出。	『平安京石京八条二坊十～十五町跡、衣田町遺跡跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-8 埋文研 2008年
38	八条二坊十町、西堀川小路	試掘	平安時代中期の西堀川小路西側溝を検出。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』文化観光局 1984年
39	八条坊門小路、西堀川小路	立会	平安時代の八条坊門小路南側溝を検出。	『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』文化市民局 2008年
40	八条坊門小路	立会	平安時代・室町時代の包含層を検出。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』文化市民局 1998年
41	八条二坊十二町	立会	平安時代前期の池状堆積層を検出。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』文化観光局 1990年
42	八条二坊十二町	立会	平安時代前期～中期の池を検出。	『平安京石京八条二坊十二町』[京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度] 文化市民局 2007年
43	八条二坊十三町、道祖大路	試掘	平安時代前期の道祖大路東側築地内溝を検出。	『平安京石京八条二坊十三町跡』[京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度] 京都市埋蔵文化財調査センター 1994年
44	八条二坊十六町、野寺小路	発掘	平安時代前期の野寺小路路面と西側溝・溝・柱穴群を検出。	『石京八条二坊』[平安京跡発掘調査概報 昭和59年度] 文化観光局 1985年
45	八条二坊十六町、七条大路	発掘	平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物・柱穴、鎌倉時代の七条大路路面・南側溝を検出。	『石京八条二坊(2)』[昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要] (発掘調査編) 埋文研 1983年
46	八条二坊十六町、七条大路	試掘	平安時代～鎌倉時代の七条大路南側溝・東西溝を検出。	『平安京石京八条二坊十六町跡、衣田町遺跡跡』[京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度] 文化市民局 2003年
47	道祖大路	立会	平安時代中期の道祖大路東側溝、時期不明の湿地状堆積層を検出。	『平安京石京八条二坊十六町跡』[京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度] 文化市民局 2009年

埋文研→財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2013年10月以降→公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

文化観光局→京都市文化観光局文化財部文化財保護課

文化市民局→京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

第三章 発掘調査の成果

1 基本層序 (図6・7)

基本層序は、調査地全体に0.3～1.0mの整地層がある。2層 10YR4/1 褐灰色シルト層 (粘性強い) は部分的に堆積がみられ、層厚は厚いところで約0.2mである。平安時代の遺物の小破片を含む。3層は 10YR4/1 褐灰色細砂層で古墳時代の土師器を包含する。この層の上面で1面の遺構を検出した。以下に4層 10YR4/1 褐灰色泥砂層が堆積する。3・4層からは古墳時代の土師器を含み、あまり時期差はないと思われる。基盤層になるとみられるのが5層 7.5YR5/6 明褐色砂礫層である。この層の上面で弥生時代末から古墳時代初期の湿地状堆積 (湿地 066) などを確認した。湿地 066の上面で竪穴建物とみられる遺構 033を検出している。基盤層である5層 7.5YR5/6 明褐色砂礫層からの出土遺物はないが流路堆積とみられる。

2 遺構の概要

表2 遺構概要表

検出した遺構の総数：84

検出面	時期	主な検出遺構
1面	平安時代前期	土坑
2面	弥生時代～古墳時代	竪穴建物 土坑 湿地
3面	弥生時代後期	湿地

第1面で平安時代前期、第2面で弥生時代から古墳時代の遺構を確認した。また基盤層の第3面で遺物を含む湿地状の層を確認した。

基盤層とした7.5YR5/6 明褐色砂礫層 (5層) は調査区の北東部から東側で標高19.7m、南西部で19.1mで確認され、南西に下がる地形を呈している。試掘調査の成果などから湿地又は流路堆積層であることから遺構面としては不安定な層であったが第3面として調査をおこなった。

(1) 第3面 (図8 図版1-2・2)

湿地 066 (図8 図版2-1) 調査区の南西側に広がる土層 (図6・7の24層から27層) の堆積を湿地 066として遺物の取り上げを行った。調査区のX-112.274ライン、Y-24.306ライン付近から南西に向けて広がる堆積層。粘性が強いシルト質の堆積土である。近江型の受口の鉢を中心に土器類が多く出土した。また砥石1点も出土した。

(2) 第2面 (図9 図版3-4・5)

湿地 023 (図10上 図版3-2～4) 調査区の北東部から南側に向けて堆積する層。上層は褐灰色の細砂、下層は泥砂層である。湿地又は流れの堆積層とみられる。出土した土器類は比較

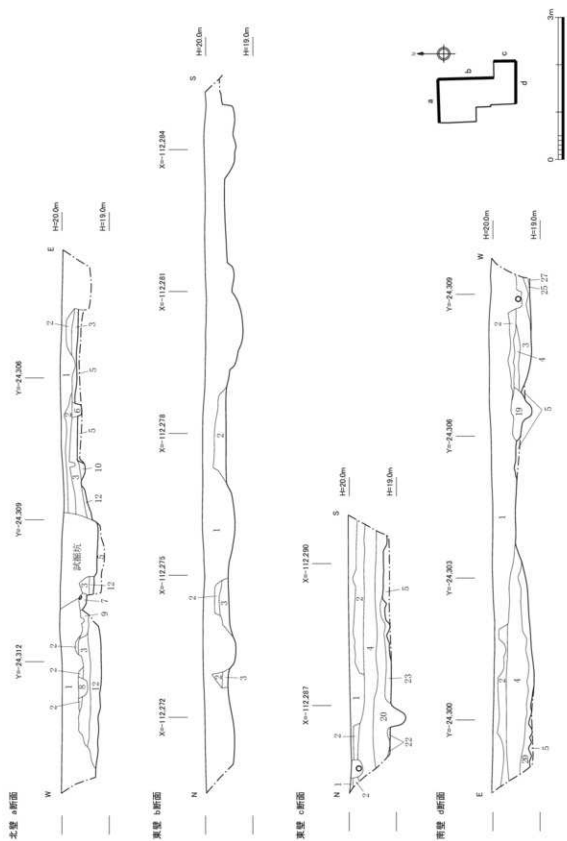


図6 調査区北壁・東壁・南壁断面図 (1:80)

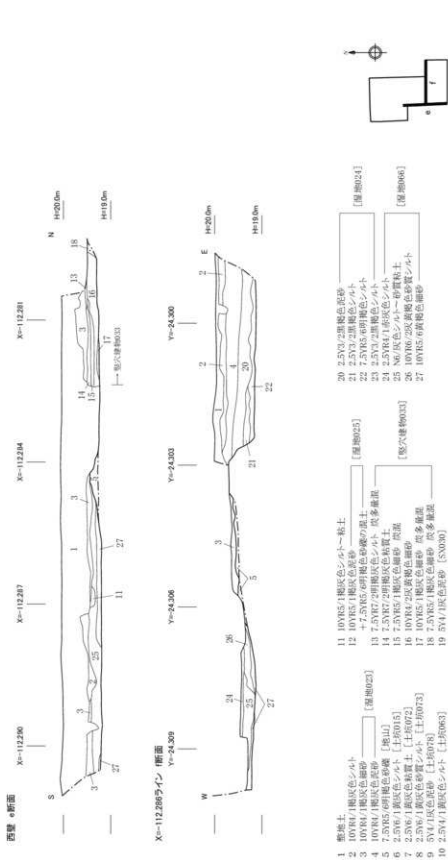


図7 調査区西壁・X=112,286ライン断面図 (1:80)

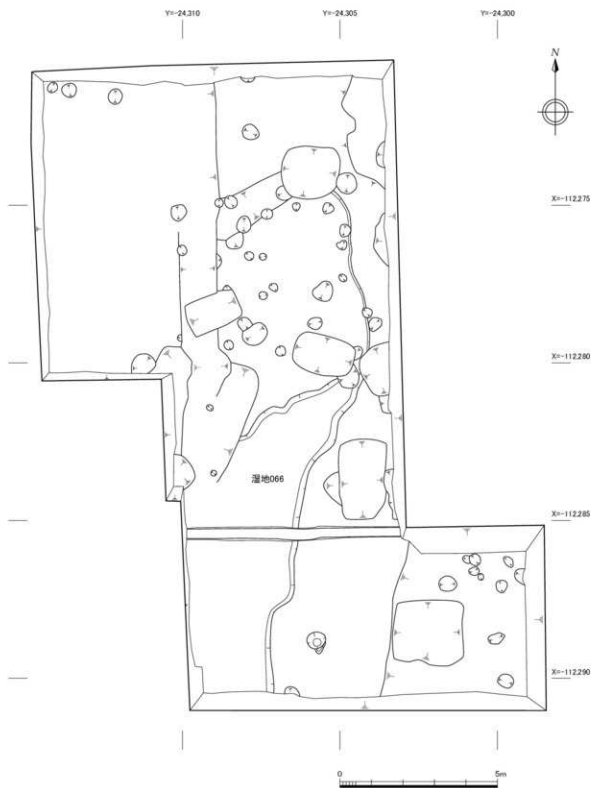


图8 第3面平面图 (1 : 120)

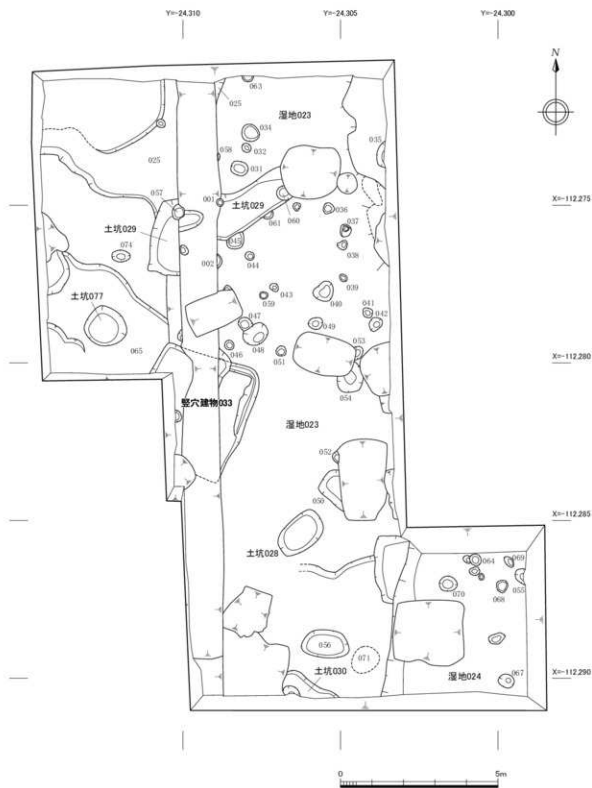


图9 第2面平面图 (1:120)

的大きな破片のものが多く、また摩滅もあまりみられない。

湿地 024 (図 10 下 図版 4) 調査区の南側で東に張り出した調査区が湿地 024 に入る。ほぼ Y-24.304 ラインから東側である。上面は湿地 023 の下層に覆われており、検出面からの深さは 0.35m ある。平坦な底面から比較的急角度で西肩は立ち上がる。埋土は黒褐色の泥砂～シルトで出土遺物は摩耗していない。また、ほぼ完形の土器が出土している。

土坑 077 (図 11 上 図版 5-2) X275、Y313 区で検出した。直径 1.3m ほどの円形に近い平面形を呈す。検出面からの深さは約 0.2m で灰色泥砂、オリーブ黒色泥砂を埋土としている。土坑内から小破片であるが土器が出土している。

土坑 028 (図 11 下) X284、Y309 区で検出した。長径 1.6m、短径 1.0m を測る平面楕円形を呈する。検出面からの深さ約 0.2m を測る。湿地 023 を除去して検出した。埋土は褐灰色細砂と灰色シルトの混土である。布留期の甕、小型器台などが出土した。

土坑 029 (図 14 左上) X272、Y312 区で検出した溝状の遺構。東西に約 5 m 検出した。深さは 0.1～0.15m あり、埋土は褐灰色の細砂である。検出面で高杯が出土したが、上面を覆う湿地 023 に伴う遺物である可能性がある。

竪穴建物 033 (図 12 図版 5-3・4) 調査区のほぼ中央部 X278、Y312 区で湿地 023 を除去して検出した。東西 3.3m、南北 3.8m 以上の平面方形を呈する。北で東に約 24° 振れる。検出面からの深さは西側が残存状態が良く 0.4m、東側で 0.2m ある。埋土は灰黄褐色で炭化物を多く含む。南側は攪乱などにより削平される。壁溝は全周していないようで、北東角には掘られるが、北西側では壁溝は掘られていない。貼り床とみられる層は西側では確認できなかったが、東側では褐灰色粘質土が床面を構成する土と思われる。柱穴は検出していないが、中央部やや西側で炭の充満した浅い Pit を検出した。

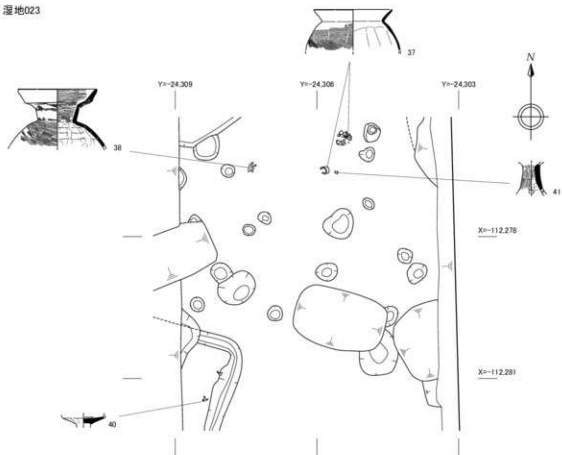
床面からの出土遺物はない。検出面から 3 点の土器が出土している。甕底部(図 16-26)・壺(図 16-27)は弥生時代末に、高杯(図 16-28)は古墳時代に属すとみられる。

(3) 第 1 面 (図 13 図版 6)

柱穴 001・002 (図 14 右上) X275、Y309 区の試掘坑東断面にかかり検出した Pit である。南北に並び芯々で 1.8m を測る。柱穴 001 にはほぼ腐食した柱痕とみられる木質を確認したが柱穴 002 では柱痕は確認していない。南北又は東西への柱の並びは確認できなかった。湿地 023 の褐灰色細砂層を切り込み検出している。柱穴 001 の埋土からほぼ完形の器台(図 16-29)が出土した。

土坑 010 (図 14 下 図版 6-3) X287、Y306 区で検出した土器だまり。平面形は東西に長径がある楕円形を呈すとみられるが南側は攪乱により削平される。埋土は粘性の強い 10YR4/1 褐灰色シルトで深さは 0.1～0.15m ある。直径 3cm ほどの小礫と、小破片の土器類が出土した。今回の調査で唯一確認した平安時代の遺物が出土する遺構である。平安京 1C 期の土師器や緑釉陶器などが出土している。

湿地023



湿地024

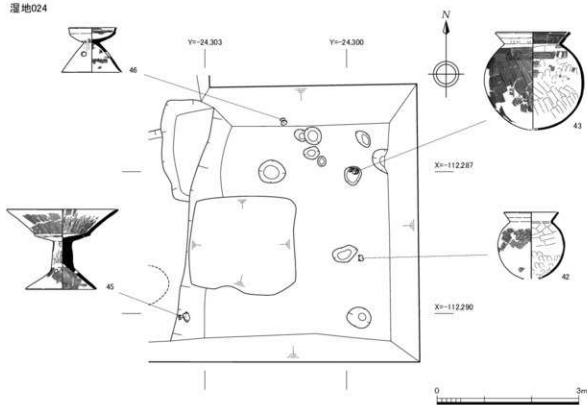
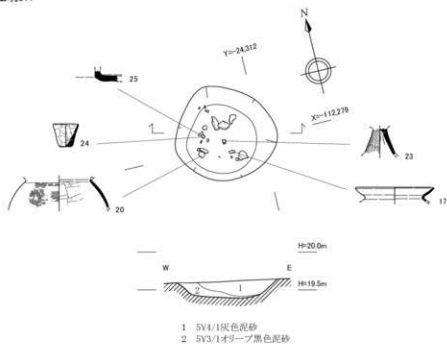


图10 湿地023·024遺物出土状況図(1:80)

土坑077



土坑028

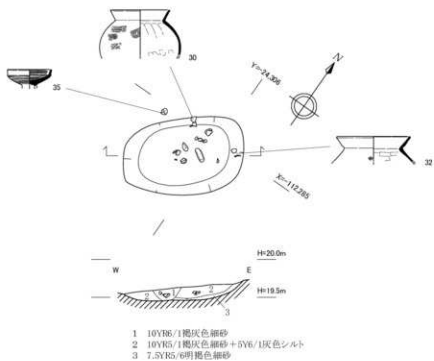


図11 土坑077、土坑028平面・断面図(1:50)

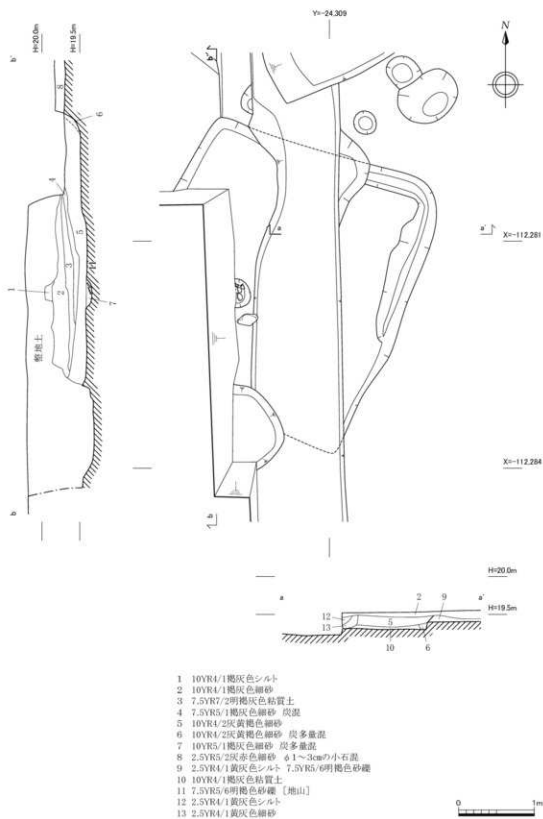


図12 竪穴建物033平面・断面図（1：50）



图13 第1面平面图 (1:120)

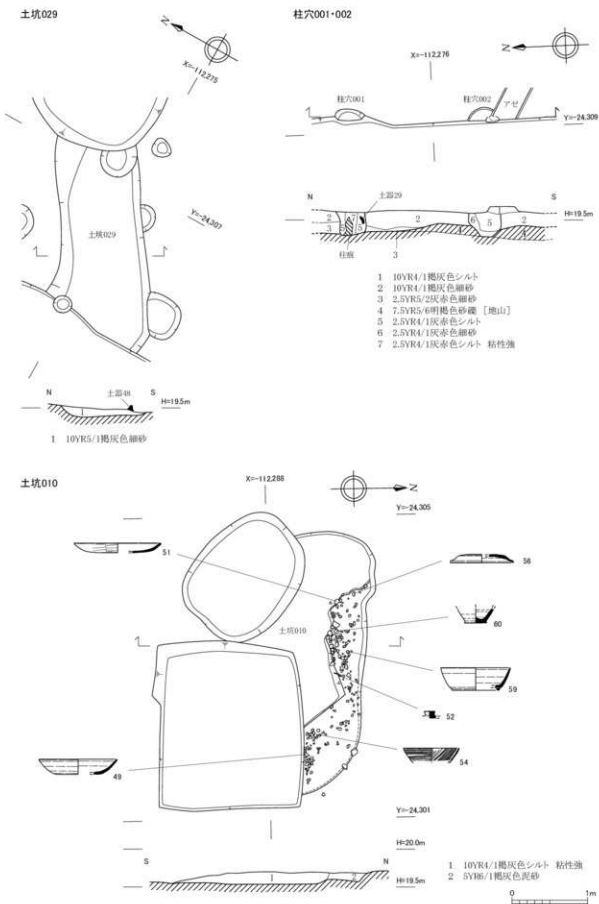


図14 土坑029、柱穴001・002、土坑010平面・断面図（1：50）

3 出土遺物

(1) 遺物の概要

今回の調査では、遺物収納コンテナにして10箱出土した。金属製品は銭貨の小片が1点、石製品は砥石が1点出土している。木製品の出土はない。出土遺物の時期は弥生時代から古墳時代中期、平安時代前期のものである。

土坑030は、弥生時代から古墳時代の少量の遺物に混入して弥生時代中期とみられる土器片が出土した。遺跡基盤層の直上に見られた湿地066からは弥生時代後期の遺物がまとまって出土した。

平安時代の遺物は土坑010から出土しただけで、以降の中・近世の出土遺物はない。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク点数	Cランク点数
弥生時代 ～ 古墳時代	弥生土器、土師器、土製品、石製品		弥生土器・土師器46点、土製品1点、石製品1点		
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、土製品、金属製品		土師器5点、黒色土器2点、須恵器5点、緑釉陶器5点、灰釉陶器1点、土製品1点、金属製品1点		
合計		14箱	合計67点 5箱	0箱	9箱

※コンテナ数の合計は、整理後遺物の抽出・復元などにより4箱多くになっている。

(2) 出土遺物

弥生時代の遺物

土坑030 (図15 図版7-1)

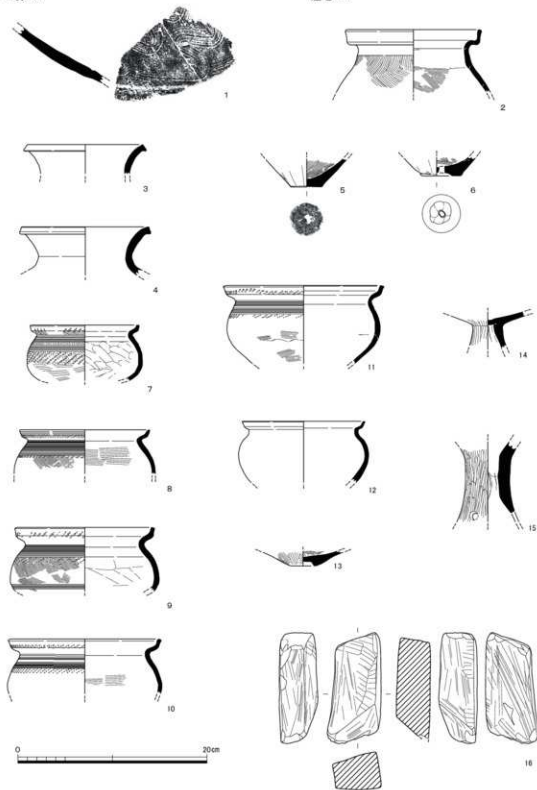
Iは、壺の肩部とみられる。7本から8本の原体による流水紋が施される。また一条の凹線が認められる。内面はナデによる調整。古墳時代前期とみられる土師器小破片に混在して出土した。II様式とみられる。

湿地066 (図15-2～16 図版7-2～5)

2は甕。ほぼ水平に外反する口縁部から垂直に立ち上がる受口状を呈する。端部は丸みを持って平滑に取められている。体部内面はハケ。外面はタテのハケ。口縁部はナデによる調整。3・4は壺。外反して立ち上がる口縁部から端部は内傾して平滑に取められる。共に胎土は軟質で摩滅著しいが内外面ともにナデによる調整とみられる。5・6は甕の底部。6は焼成前の穿孔が認められる。7～12は受口状を呈す鉢。7・9～11は口縁部に櫛描列点紋、肩部に櫛描直線紋・櫛描列点紋を施す。8は口縁部櫛描列点紋の後、端部をつまみ上げるようにナデる。体部は櫛描直線紋と刺突紋を施す。9は体部最大径付近にも櫛描直線紋を施している。7・11の外面はヨコのハケ後ナデ。8・9は外面縦のハケ後ナデ。10の外面はナデ。7・9の内面は板ナデ。8・

土坑030

湿地066



1:土坑030
2~16:湿地066

图15 出土物实测图1 (1:4)

10・11の内面は横方向のハケの後ナデ。12は装飾を施さない受口の鉢。器壁は薄く、胎土は軟質である。内面は摩耗著しいがナデとみられ、外面はナデ後オサエ。外面に煤が付着する。13は鉢の底部。内面はハケの後丁寧なナデである。14は高杯。杯部内面は摩耗著しく調整不明。杯部から脚部にかけての外面はタテヘラミガキ。胎土はやや軟質であるが精良。15は器台である。筒部外面はタテのヘラミガキ。円形透かしを三方に穿つ。16は砥石。5面に擦痕が認められる。

弥生時代から古墳時代の遺物

土坑 077 (図 16 - 17 ~ 25 図版 7 - 6)

17 ~ 19は甕。17・18はくの字に開く口縁部。端部は軽く摘み上げ平滑に仕上げる。18は体部外面タタキ。17・18ともに体部内面はケズリで薄く仕上げている。胎土は灰白色系で角閃石は含まれない。19もくの字に開く口縁部。体部外面から口縁立ち上がり部はタタキ。内面はハケ後ナデ。口縁端部外面には指頭痕を残す。20は甕体部。外面ハケ。内面はケズリによる調整。21・22は壺の底部である。内外面ともに丁寧なナデによる調整。23は高杯脚部である。外面は丁寧な縦方向のケズリ。内面はナデ。現状で二箇所円形の透かしが確認でき、三方透かしとみられる。24は手握ねの鉢。体部から底部はオサエとナデ。口縁端部はヨコナデ調整。胎土に混入する礫は無く密である。25は壺の肩部片とみられる。胎土には角閃石を多量に含む。内面はナデ。外面はミガキ。

竪穴建物 033 (図 16 - 26 ~ 28 図版 7 - 7)

26は甕底部。体部外面底部近くはタタキ。上部はタタキ後ナデ。内面はナデ。27は甕又は鉢。体部外面は摩耗が進むがハケが認められる。内面はナデ調整。胎土は密で精良だが焼成はやや甘い。28は高杯杯部。杯部は明瞭な稜をもたず外上方へ緩やかに伸び端部はヨコナデで平滑に仕上げられる。体部内面はミガキ、外面は剥離が著しいが脚接合部はハケ。

柱穴 001 (図 16 - 29)

29は器台。受け部下半から筒部裾にかけては丁寧なタテのミガキ。受け部内面もタテの密なミガキ。端部から外面にかけてナデを施す。

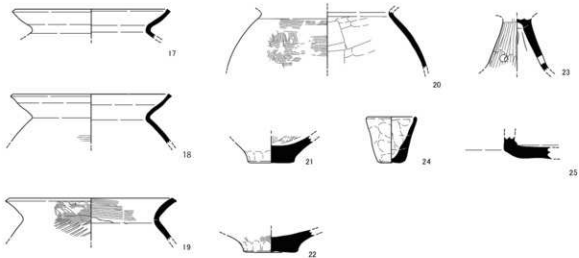
土坑 028 (図 16 - 30 ~ 35 図版 8 - 1)

30 ~ 32は甕。くの字に開く口縁。端部はナデにより平滑に仕上げられる。体部外面はハケ。内面はケズリ。33は甕底部。34は高杯脚部。杯部内面、筒部外面は丁寧なミガキ。裾部内面ナデ。裾部に円形透かしの痕跡が一箇所確認できる。35は小型器台受け部。受け部口縁はナデ。直線的に立ち上がる。内・外面共にナデ後に丁寧なミガキ。胎土は密で精良。

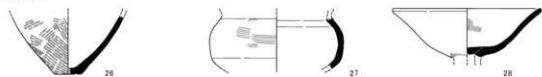
湿地 023 (図 17 - 36 ~ 41 図版 8 - 2)

36・37は甕。くの字に開く口縁で、端部は平滑に仕上げている。体部外面はヨコのハケ。内面はケズリ。38は二重口縁の壺。全体に摩耗著しいが頸部・口縁部内面はヨコの丁寧なミガキ。口縁外面もミガキ。頸部から体部外面はハケ。体部内面はオサエとナデ。内面では粘土紐接合痕が明瞭に認められる。頸部と疑似口縁の接合部はハケで調整している。39は小型丸底壺。体部内面から口縁部にかけてはナデ。体部外面はハケ。40は小型器台。内面はミガキ。筒部外面はタテの

土坑077



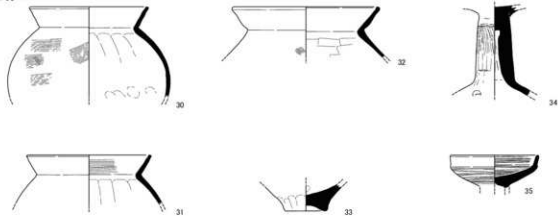
竖穴建物033



柱穴001



土坑028



17~25: 土坑077
 26~28: 竖穴建物033
 29: 柱穴001
 30~35: 土坑028

图16 出土遗物实测图2 (1:4)

ミガキ。裾部内面はケズリ。41は高杯脚部。杯部は中空で接合個所は剥離している。外面はタテのミガキ。内面下半ケズリ。

湿地 024 (図 17-42～47 図版 9-1)

42・43は甕。くの字に開く口縁で端部は肥厚し軽く摘み上げて丸く収める。42は体部内面下半はオサエナデ。上半は右上がりのケズリ。体部外面は全面細かいハケとナデ。43は体部内面はケズリとハケによる調整。外面はハケ。44は小型丸底壺。内面はナデ。外面は細かく丁寧なミガキを施す。45は高杯。平坦な杯部から大きく外反して開く口縁部。中実の脚筒部から小さく開く裾部を持つ。三方に円形透かしを穿つ。脚裾部は内外面ともにハケ。脚筒部から杯部はタテのミガキを施す。46は小型器台。丸みを帯びた受け部から短く直立する端部。脚部は大きくハの字状に丸みを帯びて開く。受け部口径より底径が大きい。全体に摩滅著しく調整は不明瞭である。47は土鍾。1.7～2.0 cmの孔がある。胎土には多くの砂粒が含まれる。

土坑 029 (図 17-48)

48は高杯脚部。外面はタテのハケを施す。円形透かしを3個所に穿つ。

平安時代の遺物

土坑 010 (図 18-49～67 図版 9-2)

49～53は土師器。49は土師器杯 A。底部外面はオサエ。体部内外面はナデ。口縁端部は肥厚して丸く収められる。50・51は土師器皿。外面は底部から口縁部直下までケズリ。内面はナデ。51の口縁端部は肥厚して丸く収められる。52・53は土師器蓋の宝珠部分。

54・55は黒色土器。54は黒色土器碗体部。外面は横方向の暗文、内面は放射状の暗文が密に施される。55は黒色土器 B の椀底部。外に踏ん張った貼付け高台。内面に暗文を施す。

56～60は須恵器。56は蓋。57は杯 A。胎土は軟質で焼成も甘い。58・59は杯 B。共に貼付け高台である。58は胎土・焼成共にやや軟質である。60は須恵器瓶子底部である。底部糸切で体部に自然釉が垂れる。

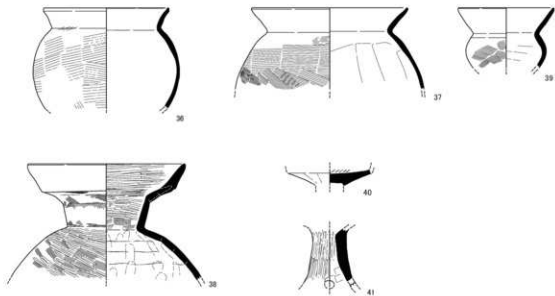
61～64は緑釉陶器。61・62はケズリ出し高台。底部裏面も含め全面に施釉する。63はケズリ出しによる輪高台。高台裏面も含め全面に施釉する。64は貼付け高台。底部内外面ともにトチン痕3個所を残し全面に施釉する。61は硬質。62・63は焼成が軟質で器面の剥離が進む。64は胎土が須恵質である。61～63は京都産、64は猿投産とみられる。

65は灰釉陶器の短頸壺である。体部外面に淡い釉が施釉される。

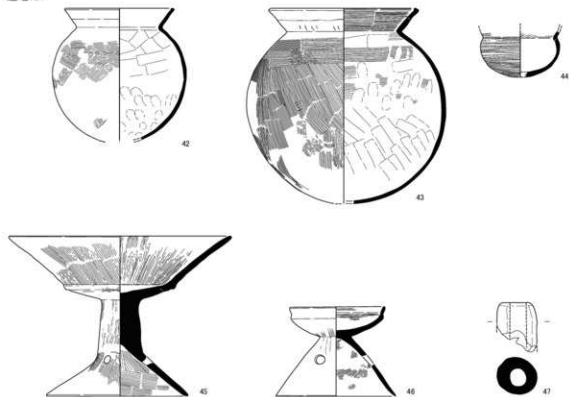
66は増埴土製品とみられる。外面は格子タタキがみられ緑釉がタテに垂れ釉はザラザラしている。内面はナデ調整で平滑、厚く深い濃緑色の釉が全面に付着している。器壁は厚く、胎土は軟陶である。

67は銭貨残欠で794(延暦15)年初鑄の隆平永寶である。

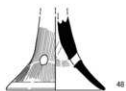
湿地023



湿地024



土坑029



36~41: 湿地023
42~47: 湿地024
48: 土坑029

0 20cm

图17 出土遗物实测图3 (1:4)

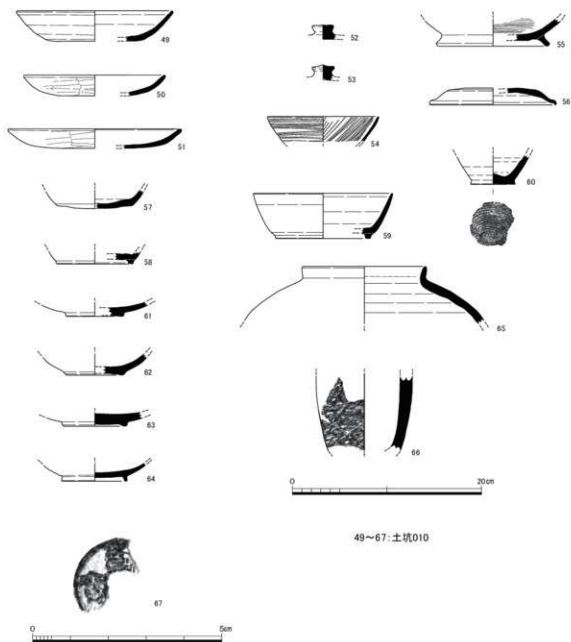


图 18 出土遗物实测图 4 (1:4, 1:1)

表4 出土遺物観察表

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
1	弥生土器	甕	土坑030	-	-	-	25YR3 赤黄褐色 3mm程の石英・チャート 胎土はやや粗 焼成良	器面25YR7-6 橙褐色 全体にナデ 凹線と底本縁を施文
2	弥生土器	甕	深地066	17.2	(6.6)	-	10YR8/1 灰白色 2mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	口縁部は内面外面ともにヨコナデ 内面はナデハケ 外部外面はハケで調整されている
3	弥生土器	甕	深地066	12.2	(3.1)	-	5YR7-6 橙褐色 20mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	磨耗著しい 調整はナデ 口縁部ヨコナデ
4	弥生土器	甕	深地066	13.4	(5.2)	-	10YR7/3 に近い黄褐色 3.5mm以下の長石・チャート 粗 焼成良	磨耗著しい 調整はナデ 口縁部ヨコナデ
5	弥生土器	甕(底部)	深地066	-	(3.0)	3.3	2.5YR8/1 灰白色 1mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	内面調整はハケ 外面に凹線あり
6	弥生土器	甕(底部)	深地066	-	(2.0)	4.0	10YR8/2 灰白色 200μm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	焼成部穿孔(ズレて2度穿っている)
7	弥生土器	鉢	深地066	11.1	(5.9)	-	7.5YR7/3 に近い黄褐色 3.0mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	口縁部付近内側文 外部と半輪高線 縦文7-8条・輪縁列点文 外部はハケで器面調整の上で施文
8	弥生土器	鉢	深地066	13.6	(4.7)	-	7.5YR8/4 浅黄褐色 1.5mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	器面5YR7/4 に近い黄褐色
9	弥生土器	鉢	深地066	14.2	(6.8)	-	10YR8/2 灰白色 2mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	口縁部原直線輪縁列点文 外部と半輪高線 縦文7-8条・輪縁列点文 外部ヨコナデ調整
10	弥生土器	鉢	深地066	15.7	(5.8)	-	10YR8/2 灰白色 2.5mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	口縁部外面にスス付着 口縁部内面輪縁列点文 外部と半輪高線 縦文(8条)・輪縁列点文
11	弥生土器	鉢	深地066	16.4	(8.3)	-	10YR8/2 灰白色 5.0mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	外面にスス付着 口縁部原直線輪縁列点文 外部と半輪高線 縦文・輪縁列点文
12	弥生土器	鉢	深地066	13.0	(6.5)	-	5YR7/8 橙褐色 3.5mm以下の長石・石英・長石・チャート 胎土軟質 焼成良	外面下部にスス付着 口縁部外は内面ともにヨコナデ 外部は内面ともにナデによる調整
13	弥生土器	鉢(底部)	深地066	-	(1.6)	2.3	2.5YR8/1 黄灰色 2mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	外面は器底のハタテ部内面ハケ後手なナデ
14	弥生土器	高杯	深地066	-	(3.9)	-	10YR8/2 灰白色 1.5mm以下の長石・石英・チャート・雲母 胎土やや軟質 磨良 焼成良	外面タテのハラミギキ 器面内部に絞り直あり
15	弥生土器	器台	深地066	-	(8.5)	-	2.5Y7/2 黄褐色 3.0mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	内部に絞り直 3方凹線通かし
16	石製品	砥石	深地066	最大長11.7	最大幅5.7	最大厚4.1	-	重さ:288.5g 互面使用
17	土師器	甕	土坑077	16.2	(3.1)	-	10YR8/2 灰白色 1mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	口縁部ヨコナデ 内面ナズリ 外面スス付着
18	土師器	甕	土坑077	16.4	(5.2)	-	10YR8/1 灰白色 1mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	内面ナズリ 外面タテキ後ナデ 外部スス付着
19	土師器	甕	土坑077	17.2	(4.5)	-	10YR8/2 灰白色 2mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	内面・胎土混合直あり 口縁部外は内面に凹線あり
20	土師器	甕(底部)	土坑077	-	(7.3)	-	10YR8/2 灰白色 2mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	凹線径:140cm 内面調整は右方向へのケズリ
21	土師器	甕(底部)	土坑077	-	(2.9)	5.0	N4-0 灰 2mm以下の長石・石英・チャート 焼成良	外面:2.5YR8/1 灰白色 内面は軟ナデ 外面底部と器底の接合部にオサエ直あり
22	土師器	甕(底部)	土坑077	-	(2.4)	5.8	2.5YR8/1 灰白色 3mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	外面全体に凹線あり 外面底部と器底の接合部にオサエ直あり
23	土師器	高杯(胴部)	土坑077	-	(5.6)	-	10YR8/1 灰白色 2-3mm以下の長石・石英・チャート・雲母 焼成良	内面ナデ(一部絞り直あり) 外面調整ミギキ 3方凹線通かし
24	土師器	手ねじ土器	土坑077	5.0	4.8	3.0	N4-0 灰 0.5mm以下の長石・石英 胎土濃 焼成良	口縁部ヨコナデ 器面内面外側オサエ
25	土師器	甕	土坑077	-	(2.4)	-	5YR6-6 橙褐色 2.0mm以下の長石・石英・チャート・角閃石 焼成良	全体にナデ
26	弥生土器	甕(底部)	壱穴建物033	-	(6.2)	2.8	10YR7/3 に近い黄褐色 5mm程の長石・石英・チャート 焼成良・硬	外面ナデナデキ 外面上ナデキ後ハケ 内面はナデ
27	弥生土器	甕	壱穴建物033	-	(5.7)	-	10YR8/3 浅黄褐色 石英・長石・チャート 焼成良	外面はミギキ 内面ナデ
28	土師器	高杯 胴部	壱穴建物033	15.6	(5.3)	-	5YR7/8 橙褐色 石英・長石・チャート 焼成や中軟	杯底部内面凹線直 内面ナデナデミギキ 外面ナデ 器底とのつなぎ目部分はハケ
29	土師器	器台	柱穴001	10.2	(9.2)	-	10YR7/3 に近い黄褐色 石英・チャート 焼成良	3方凹線通かし 変部ナデナデのミギキ 器面外側ミギキ内面はハケ後ナデ 口縁部ヨコナデ
30	土師器	甕	土坑028	12.6	(9.7)	-	10YR7/2 に近い黄褐色 石英・長石 焼成良	口縁部原直線・口縁は内面外面共にヨコナデ 外部外面はハケ 器面内面はナデだが器面内面はナズリ
31	土師器	甕	土坑028	13.2	(5.3)	-	10YR8/2 灰白色 石英・長石・チャート・雲母 胎土濃 焼成良	口縁部原直線のみヨコナデ 外面はナデ 内面は口縁部原直線・口縁部原直線までがハケだが器面内面はナデ器面内面はナズリ
32	土師器	甕	土坑028	19.2	(5.4)	-	10YR7/3 に近い黄褐色 石英・長石・チャート・雲母 焼成良	口縁部原直線・口縁は内面外面共にヨコナデ 器面内面はナズリ
33	弥生土器	甕(底部)	土坑028	-	(2.9)	4.2	7.5YR8/3 浅黄褐色 石英・長石・チャート 胎土やや中硬 焼成良	全体にナデ
34	土師器	高杯 胴部	土坑028	-	(9.8)	-	7.5YR8/2 灰白色 4mm程の石英・長石・チャート 焼成良	胴部内面に胎土しぼり直あり 凹線通かし直

図録番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
35	土師器	小型器台	土坑028	9.2	(3.3)	-	75YK7/4にぶい黄褐色 石英・長石 胎土まで焼良 焼成良	杯部内外面ともに細かいミガキ。口縁外面ナデ
36	土師器	甕	埋地023	13.1	(10.7)	-	10YK7/3にぶい黄褐色 3.4mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	口縁部ナデ 体部外面ハケ 内面ケズリ後ナデ
37	土師器	甕	埋地023	16.4	(8.7)	-	10YK7/2にぶい黄褐色 2.0mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	体部内面ヨコのハケ 内面右方向にケズリ
38	土師器	二重口縁甕	埋地023	16.5	(12.4)	-	10YK7/3にぶい黄褐色 5.0mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	口縁部内面丁寧なミガキ 口縁部外面ミガキ 肩部から体部外縁ハケ 肩部と口縁部合部はハケ
39	土師器	小型丸底甕	埋地023	10.1	(6.4)	-	75YK7/4にぶい黄褐色 2.0mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	体部内面ケズリ 外面細かく丁寧なミガキ
40	土師器	小型器台	埋地023	8.4	(1.7)	-	75YK7/4にぶい黄褐色 1.0mm以下の石英・長石・ 焼成良	外面に右方向のケズリ
41	土師器	高杯	埋地023	-	(6.1)	-	5YK7/6褐色 3.0mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	内面上半部に粘土貼り残 頸部内面下部に右方向のケズリ 透かし3箇所(部定4箇所)
42	土師器	甕	埋地024	11.6	(13.9)	-	10YK7/2にぶい黄褐色 4.5mm以下の長石・チャート・ 焼成良	口縁部底面・口縁部内・外・内面ともにヨコナデ 外面体部はハケのミガキ 体部内面は上半部ケズリ(右方向) 下部部ナデ
43	土師器	甕	埋地024	15.2	(20.7)	-	25Y7/3浅黄 2.0mm以下の長石・石英・チャート・ 雲母・ 焼成良	体部内面はケズリとハケ 外面はハケ 外面全体に土灰付着
44	土師器	小型丸底甕	埋地024	-	(5.0)	-	5YK6/4にぶい黄褐色 石英・長石 焼成良	体部外面丁寧なミガキ 体部内面ナデ 底部外面に土灰付着
45	土師器	高杯	埋地024	23.4	17.0	15.6	5YK8/4淡褐色 3mm程度の石英・長石・チャート・ 焼成良	杯部内面タテの丁寧なミガキ 外面ミガキ 頸部内面はハケ 三方透かし
46	土師器	小型器台	埋地024	10.0	9.5	12.6	75YK7/6褐色 1.0mm以下の長石・チャート・ やや軟質 焼成良	口縁部は横み上げようになデ 受部内面はミガキ 外面増長の為調整不明瞭 三方透かし
47	土師器	土師	埋地024	長 (52)	幅 4.3	厚 3.9	75YK8/3浅黄褐色 3mm程度の石英・チャート・ 焼成良	全体にナデ 孔幅17~20 重さ547g
48	土師器	高杯	土坑029	10.1	(7.8)	-	25YK2/灰白 2.0mm以下の長石・石英・チャート・ 焼成良	表面黄褐色 75YK7/4にぶい黄褐色 3箇所(穿孔あり)(外から内)
49	土師器	杯A	土坑010	16.4	3.2	-	10YK8/3浅黄褐色 チャート・ 焼成良	器縁はナデ 底面はナデ
50	土師器	皿	土坑010	14.6	(2.2)	-	75YK8/3浅黄褐色 胎土石英・チャート・ 焼成良	内面ナデ 外面ケズリ
51	土師器	皿	土坑010	18.0	2.1	-	10YK7/2にぶい黄褐色 長石・雲母・ 焼成良	内面ナデ
52	土師器	蓋(空珠)	土坑010	-	(1.5)	-	10YK7/2にぶい黄褐色 石英・長石・雲母・ 焼成良	
53	土師器	蓋	土坑010	-	(1.7)	-	10YK7/3にぶい黄褐色 石英・ 焼成良	
54	黒色土師	瓶	土坑010	11.8	(2.7)	-	5YK6/2灰褐色 石英・長石 焼成良	器面は25Y3/1黒褐色 内面:放射状の筋文 外面:横方向の筋文
55	黒色土師B	瓶	土坑010	-	(2.9)	11.8	10YK7/2にぶい黄褐色 石英・長石・チャート・ 焼成良	器面はN3/0暗灰色 内面ヨコの筋文 黏付高台 全体にナデ
56	須恵器	蓋	土坑010	13.3	(1.8)	-	N6/0灰色 長石・黒色粒子 焼成良	
57	須恵器	杯A	土坑010	-	(2.0)	-	25Y7/1灰白 0.5mm以下の長石・黒色粒子 軟質 焼成いい	全体にロクロナデが施されている 底部は回転ヘラケズリ
58	須恵器	杯B	土坑010	-	(1.3)	8.0	N7/0灰白 0.5mm以下の長石・黒色粒子 焼成良	全体にロクロナデが施されている 黏付高台 底部は回転ヘラケズリ
59	須恵器	杯B	土坑010	14.7	4.8	10.0	5YK5/1青灰 0.5mm以下の長石 焼成良	黏付高台 内面はロクロナデ 底部は回転ヘラケズリ
60	須恵器	瓶子	土坑010	-	(3.1)	(4.6)	25Y7/1灰白 1mm以下の長石・チャート・黒色粒子 焼成良	内面底面と外底(一部)に自然熱 全体にロクロナデ 底面は回転ホウケズリ
61	緑釉陶器	杯	土坑010	-	(1.6)	6.0	10YK8/2灰白 軟質 2mm以下の長石・チャート・黒色粒子 胎土軟質 焼成良	釉:75Y6/2灰オリーブ 全体に施釉 ケズリ出し高台
62	緑釉陶器	瓶	土坑010	-	(2.3)	6.0	25YK2/灰白 軟質 1mm以下の長石・チャート・黒色粒子 胎土軟質 焼成良	釉:75Y6/3オリーブ青 外面が全体的に薄く、釉薬の潤滑がみられる 内面全体・高台付近に施釉 ケズリ出し高台
63	緑釉陶器	瓶	土坑010	-	(1.4)	(6.6)	10YK8/2灰白 0.5mm以下の長石・チャート・黒色粒子 胎土軟質 焼成良	釉:10Y8/1灰白 全体に施釉 ケズリ出し高台
64	緑釉陶器	瓶	土坑010	-	(1.9)	6.9	N7/0灰白 須恵質 0.5mm以下の長石・黒色粒子 焼成良	釉:75Y6/3オリーブ青 全体に施釉 黏付高台 底部内面・外面ともにトナシ 3箇所残存 筋紋
65	灰釉陶器	甕	土坑010	(13.0)	(6.1)	-	25Y7/2灰白 軟質 5mm以下の長石・チャート・黒色粒子 焼成良	釉:75Y5/2灰オリーブ 外面と口縁部内面上半に施釉
66	土師器	埴輪	土坑010	-	(7.9)	-	75YK7/6褐色 4mm程度の長石・チャート・ やや軟質 焼成良	釉:75Y7/3暗オリーブ色 凸面に斜格子ナデナキ 内面丁寧なナデ
67	銭貨	陸守永寶	土坑010					重さ:(1.1g) 1/4残存

IV章 まとめ

今回の調査では弥生時代～古墳時代の竪穴建物・土坑、平安時代の土坑を検出し、湿地状の堆積土から良好な状態で弥生時代～古墳時代の遺物が出土した。

出土した平安時代以前の土器類では、土坑 030 出土の土器(1)は混入とみられるが弥生Ⅱ様式。湿地 066 が弥生時代後期に、土坑 077 が庄内併行期、それ以外は弥生時代後期から布留期の土器が混在して出土した。

竪穴建物について

調査地の土層は基本的に細砂層とシルト層の堆積で流路又は湿地の堆積土である。遺構面としては不安定な土層であり、竪穴建物になるか疑問であった。また床面とみられる面での柱穴や炉・カマドの検出もできなかった。しかし検出時に明確にプランを確認できたこと、北東部に壁溝を確認できたことから竪穴建物とした。衣田町遺跡ではこれまでに遺跡の北東部において弥生時代後期の方形周溝基1基を検出している(第Ⅱ章-2 既往の調査5)。壺・甕の土器類とともに磨製石鏃が出土している。また立会調査であるが縄文時代の土坑(調査48)、弥生時代の竪穴建物(調査50)を検出している。これらは遺跡の北側にあたり遺構の基盤層も粘質土で安定した土層である。集落の本体は現在の七条通の北側にあるものと思われる。

土坑 010 出土遺物について

平安時代前期の土坑 010 から緑釉が付着した陶器片が出土している。器壁は厚く軸は内面が厚く濃い緑釉で、外面は垂れるように釉薬が付着し表面はザラザラとしている。底部が丸く収まる砲弾型の器形を呈する埴塼形土製品である。類例は西京区に所在する小塚5号窟で出土している。

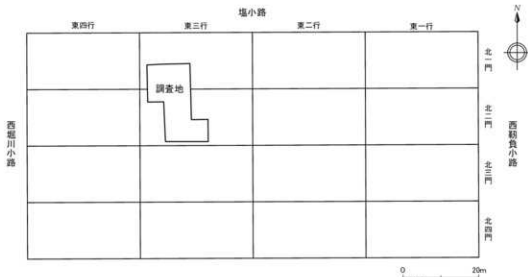


図19 四行八門図(1:1,000)

5号窯出土遺物は口縁部から体部の破片で、丸い口縁部を呈した破片で器壁は厚く、内面に厚く緑色の釉が付着し、外面は被熱により釉は赤褐色に変色している。この報告書では石作1・2号窯出土品に類似することから、用途不明としているが窯道具の埴塼状土製品としている¹⁾。小塩窯、石作窯はともに洛西古窯跡群に属す緑釉陶器焼成窯である。このほか狼投山西南麓古窯跡群に属する熊ノ前古窯跡でも同様の埴塼が出土している。

今回の調査で出土した埴塼状土製品は小塩窯出土品のように器表面がザラザラしているだけで明確に被熱を受けている痕跡は認められない。また生産遺跡ではなく消費地である平安京内で出土していることから、窯道具の埴塼状土製品というより緑釉陶器の器形の一つと考えたほうが良いかもしれない。これまで平安京内での出土例はないとみられ、類例の資料の増加を待ちたい。

平安京右京八条二坊七町の調査であったにも関わらず平安時代の遺構は土坑1基の検出にとどまった。調査トレンチの北端は東三行北一門にあたり塩小路を挟んだ北側は西市外町にあたる。外町にあたる八条二坊八町(調査35)では標高約19.8mで腐植土層を基盤として、平安時代の遺構が成立し、調査地東側約100mの七条小学校校内での調査(調査29～31)でも、腐植土層を基盤として西萩負小路、側溝、区画溝などの平安時代の遺構を良好に検出している。湿潤で不安定な地盤にもかかわらず平安京造営初期においては調査地周辺でも造作がおこなわれたことが明らかとなっていた。また調査地の南西約200mの右京八条二坊十・十五町(調査37)では標高19.0mで野寺小路路面などの平安時代の遺構を検出している。今回の調査では、平安時代の遺構面である褐色細砂層の上面は標高19.6mを測る。しかし平安時代の遺構は土坑010と柱穴状のピット数基にとどまっており、これは遺構が削平されて検出がなされなかったとも考えられるが、平安時代以降、中・近世の遺構も皆無であることから、当地は特に湿地状態が酷かったため、宅地としての利用がなされなかったものと考えられる。木製品や紀年銘木簡、多種多様な遺物の出土から市の賑わいをうかがわせる二坊八町²⁾(調査35)や二坊二町(調査29～31)に隣接する町にもかかわらず、全く異なった景観を呈していた状況がみてとれよう。

注)

- 1) 「大原地区の試掘調査」[昭和57年度 京都市内遺跡試掘立会調査概報] 京都市文化観光局 1983年
- 2) 辻 裕司「市の繁栄」[リーフレット京都№5 生活・文化1] 財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 1990年

参考文献

「全国緑釉陶器生産関連遺跡出土遺物集成」[古代の土器研究会 第7回シンポジウム 古代の土器研究－平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心に－] 古代の土器研究会 2003年
図録「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る－」 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 2018年

圖 版



1. 調査地上空から北方西市方面を望む



2. 第3面全景（北から）



1. 1区 湿地066 (南西から)



2. 2区 第3面全景 (北から)



1. 1区 第2面全景 (北から)



2. 湿地023遺物出土状況



3. 湿地023 土器38出土状況



4. 湿地023 土器37・41出土状況



1. 1区第2面 湿地024 (南から)



2. 湿地024 土器45出土状況 (北から)



4. 湿地024 土器42出土状況 (南から)



3. 湿地024 土器46出土状況 (南から)



5. 湿地024 土器43出土状況 (東から)



1. 2区第2面全景（北から）



2. 2区第2面 土坑077（北から）



3. 竪穴建物033 ピット（東から）



4. 竪穴建物033全景（北東から）



1. 1区第1面全景（北から）



2. 2区第1面全景（北から）



3. 1区第1面 土坑010（西から）



1. 土坑030



2. 湿地066



3. 湿地066



4. 湿地066



11



10



13



9

5. 湿地066



25



24

6. 土坑077



27

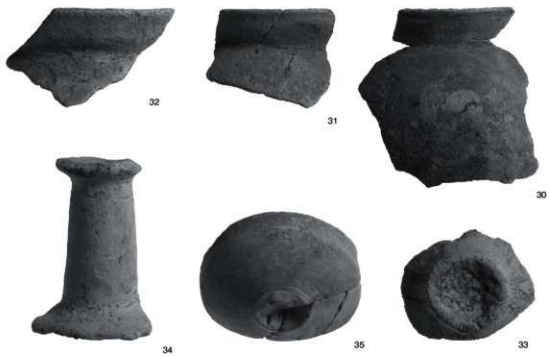


26



28

7. 竖穴建物033



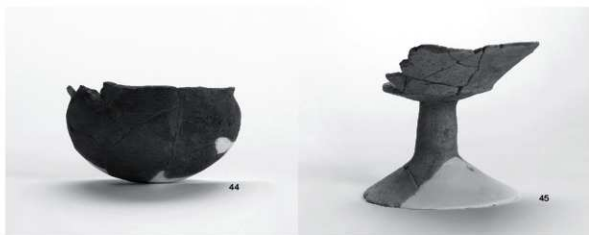
1. 土坑028



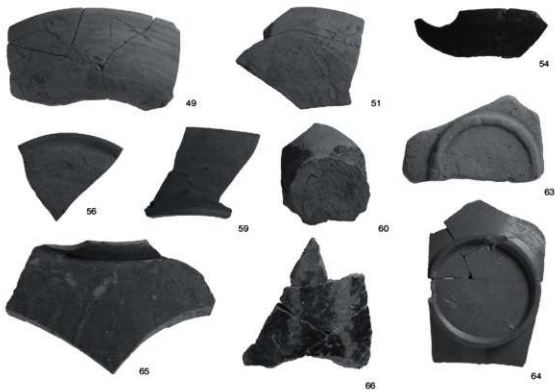
2. 湿地023



3. 湿地024



1. 湿地024



2. 土坑010

報告書抄録

ふりがな	へいあんきょううきょうはちじょうにほうしちちょうあと・きぬたちょういせきはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	文化財サービス発掘調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	菅田 薫 野地ますみ							
編集機関	株式会社 文化財サービス							
所在地	〒612-8372 京都市伏見区北端町58							
発行所	株式会社 文化財サービス							
発行年月日	2021年5月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡	京都市下京区西七条石井町8番地他1筆	26100	1 713	34度 59分 15秒	135度 44分 01秒	2021年 2月4日 ～ 2021年 3月6日	218㎡	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
衣田町遺跡	散布地	弥生時代 ～ 古墳時代中期	湿地 堅穴建物 土坑	弥生土器 土師器 土製品 石製品	・弥生時代から古墳時代の湿地、堅穴建物とみられる遺構を検出した。			
平安京跡	都城	平安時代前期	土坑	土師器 須恵器 黒色土器 緑釉陶器 灰釉陶器 土製品 金属製品 瓦	・平安京造営以降の遺構は性格不明の前期の土坑のみである。			

文化財サービス発掘調査報告書 第17集

平安京右京八条二坊七町跡・衣田町遺跡
発掘調査報告書

発行日 2021年5月31日

株式会社 文化財サービス

編集 〒612-8372 京都市伏見区北端町58

Tel. 075-611-5800

三星商事印刷株式会社

印刷 〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下る

Tel. 075-256-0961